

# 地方都市における持続可能な交通システムの構築

## —高齢者の移動の自由と安全の両立を目指して—

横手清陵 C1251225 齋藤友梧

---

現代の日本、特に地方都市において、高齢者の移動手段の確保と交通事故の削減は課題である。公共交通機関の路線縮小や本数の減少に伴い、多くの高齢者が自家用車に頼らざるを得ない車社会が形成されている。一方で、身体機能や認知機能の低下に起因する重大事故は後を絶たず、社会的には早期の免許返納が推奨されている。しかし、単に返納を促すだけでは、高齢者の生活の質の低下や、社会的な孤立を招くリスクがある。本レポートでは、自チームが取り組んだ高齢者の免許返納問題を中心に、他チームの優れた知見を取り入れ、地方都市における交通問題の総合的な解決策について論じる。

### A) 他チームの発表から得られた新たな視点

本講義の発表会を通じて、自チームにはなかった画期的な解決策を提示していた二つのチーム、「14班」と「2班」の内容について深く考察する。

14班は、地域通貨（仮想通貨）を交通インフラに導入し、公共交通機関の利用に対してポイントを付与するという提案を行った。自チームでは、免許返納が進まない原因を主に「生活の足の喪失」や「制度の不備」として捉えていたが、14班の提案はそこに「経済的メリット」と「地域経済の活性化」という強力な動機付けを加えるものであった。

高齢者にとって、バスやタクシーへの乗り換えは心理的・経済的なハードルが高い。しかし、乗車ごとに地域通貨が付与され、それが地元の商店街などで利用可能となる仕組みがあれば、外出そのものが得をする活動へと変化する。これは、返納を「喪失」ではなく、新しいライフスタイルへの「転換」としてポジティブに提示するものであり、非常に有効な視点であると感じ、参考になった。

2班が提案した「レインボーロード」というアイディアは、道路自体に光や音の演出を加え、視覚的・直感的に安全を確保するというものである。自チームの検討では、高齢者自身の注意力の向上や制度改革に重きを置いていたが、オムライスの提案は「環境側を人間に合わせる」というユニバーサルデザインのお手本であった。

加齢に伴う動体視力の低下や判断の遅れを、最新のインフラテクノロジーが補完するという考え方は、高齢者が運転を継続する場合でも、返納して歩行者や自転車利用者になる場合でも、双方の安全性を飛躍的に高める。特に、夜間や悪天候時における視認性の向上は、地方都市特有の厳しい交通環境において、事故防止の決定打になり得ると思ひ、参考になった。

## B) 地方都市交通の総合的解決に向けた私見

自チームでは当初、問題の原因を「公共交通の不足」「返納への心理的不安」「地域とのつながりの希薄化」「制度の硬直性」と分析していた。しかし、他チームの発表を踏まえ、新たに「交通安全に対する報酬の欠如」と「環境側の支援不足」を重要な要因として追加すべきであると考えている。

これら6つの課題を統合し、共通して解決するためのビジョンを、当初の「安全な返納促進」から、「全世代が安心して外に出たくなる、デジタルとアナログが融合した社会」へと進化させたい。これは、高齢者を「守られるべき弱者」として隔離するのではなく、テクノロジーと制度によって社会の中に安全に繋ぎ止め続けるという考え方である。

このビジョンを実現するためには、以下の三つの柱を同時並行で進める必要がある。

第一に、「段階的卒業を支援する制度設計」である。他チームが提案した「条件付き免許」をベースとしつつ、そこに37班が提案したVR技術による定期的なシミュレーション教育を組み合わせる。これにより、自身の衰えを客観的に認識させつつ、無理のない範囲で運転を継続・卒業できる環境を整えることができると思う。

第二に、「移動を価値に変える経済システム」の導入である。14班の仮想通貨構想をさらに発展させ、免許を自主返納した高齢者には高い付与率でポイントを与えるだけでなく、そのポイントを地域の医療機関や介護サービスでの支払いにも充当できるようにする。これにより、移動の確保がそのまま健康維持や福祉の充実へと直結する仕組みを構築すると考えられる。

第三に、「安全を担保する物理的・デジタルインフラ」の整備である。2班のレインボーロード構想を主要な交差点や通学路、さらには40班が指摘した道幅の狭い危険箇所を導入する。加えて、車両側の自動ブレーキ技術とインフラ側の通信を連携させることで、ヒューマンエラーを物理的に排除する「事故ゼロ」の街づくりを目指す。

これらの統合的アプローチにより、高齢者は自由な移動を諦めることなく、安全に社会参画を続けることが可能となる。免許を返納したとしても、経済的な恩恵と安全な歩行環境が担保されていれば、引きこもりや認知症の進行といった二次的な問題も抑制できる。

ただし、これらの大規模な仕組みを維持するためには、財源の確保やデジタルデバイドの解消など、克服すべき課題も多い。特に、高齢者が地域通貨やスマートインフラを使いこなせるよう、地域コミュニティによる丁寧なサポート体制が必要不可欠である。

よって、地方都市における交通問題は、一つのアイデアだけで解決できるほど単純ではない。本講義を通じて得られた「制度」「経済」「インフラ」「教育」の各視点を、パズルのピースのように組み合わせることで初めて、持続可能な社会が見えてくる。私は、高齢者が誇りを持ってハンドルを置き、それと同時に新しい生活の喜びを感じられるような社会こそが、これからの地方都市が目指すべき姿であると確信している。

① 採点結果返却を希望します。

② yuu-0621@yahoo-ne.jp